

二〇二二年度

普連土学園中学校 入学試験問題

二〇二二年 二月二日実施

国語

一日午後二科

- 一、問題に答える時間は五十分です。
- 二、問題は、問題一 問題五 まであります。
- 三、答はすべて、「解答用紙」に記入しなさい。
- 四、「解答用紙」は中に二枚はさんであります。

問題一 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

来週の授業で、クラスのみんなの前で発表することになったA子さん。もともと不安傾向の強いAさんは心配で仕方ありません。

「話す内容を忘れて、頭の中が真っ白になるのではないか……」

「自分の声小さくて、クラスの友だちが聞きとれないのではないか……」

「準備が十分ではないと、先生に怒られるのではないか……」

「質問に答えられないのではないか……」

と、次から次へと不安がおそってきます。

はたして、Aさんはクラスの前でうまく発表できるでしょうか。

結果についてはこの章の後半でお伝えします。

このように物事についてネガティブに考えるよりは、物事はポジティブに考えたほうがよい。

読者のみなさんの中には、そう思っている人が多いのではないのでしょうか。書店には、「成功するためには常にポジティブでいよう」といった楽観的になるための自己啓発の本が溢れかえっています。

心理学の世界でも、「ポジティブ思考が美徳である」というのが、これまでの支配的な考えでした。

では、^①なぜ、ポジティブ思考がよいものとされているのでしょうか。

そのことを考えるために、「来週、学校で試験がある」という場面をちよつと想像してみてください。その時、「きつとうまくいくさ!」と考えますか。それとも、「悪い成績になってしまったらどうしよう!」と考えますか。

心理学では、良い（ポジティブな）結果を期待する傾向を「楽観主義」、悪い（ネガティブな）結果を予期する傾向を「悲観主義」といいます。

先の場面で、「きつとうまくいくさ!」と考えた人は、楽観主義の持ち主（「楽観主義者」）になります。一方で、「悪

い成績にならないだろうか」と思った人は、悲観主義の持ち主（「悲観主義者」）になります。先に紹介した不安傾向が強いA子さんは、まぎれもなくAです。

一般的には、楽観主義と悲観主義では、楽観主義のほうが望ましいと思われることはみなさんも想像できるでしょう。心理学の研究でも、楽観主義者は心身の健康状態が良く、感染症にかかりにくく、パフォーマンスが高い一方で、悲観主義者は無気力で希望を失いやすく、簡単にあきらめてしまうため、能力以下の成績や業績しかあげられないことが実証的に確認されています。a、楽観主義者のほうが悲観主義者よりも長寿である、というデータもあるくらいです。

こうしたデータから、「楽観主義者は成功する」といわれており、それは裏を返すと、「悲観主義者は失敗する」ということになります。

……中略……

ところが、近年、悲観主義者のなかにも、「物事を悪いほうに考える」ことで成功している人がある程度いることがわかってきました。そういった傾向にある人は、前にある行動でうまくいったとしても、「前にうまくいったから、今度もうまくいく」とは考えないで、これから迎える状況に対して、最悪の事態を想定します。冒頭でとりあげたA子さんのように、最悪の事態をあらゆる角度から悲観的に想像しては、失敗を想定するのです。そういった考え方をする人を心理学では、防衛的悲観主義者といいます。また、②こうした考え方を防衛的悲観主義と呼びます。

このような防衛的悲観主義は、とりわけ、不安傾向が強い人に有効な心理的作戦となりうるのです。

防衛的悲観主義が「物事を悪いほうに考える」ことで成功する理由には、二つのポイントがあります。まず一つ目は、悲観的に考えることで、不安をコントロールできる点です。

③不安はパフォーマンスを阻害する大きな要因の一つです。不安が生じると、向かうべき課題に集中できなくなり、不安に押しつぶされてしまつて、本来の実力が発揮できなかったという経験は、誰にもあるでしょう。防衛的悲観主義者は、とりわけ不安が強い傾向にあるのです。

このパフォーマンスの障害となる「不安」という感情は、これから遭遇する状況では何が起こるのかわからないといった思いから、生まれるものです。失敗するのか、それとも成功するのか、自分が赤っ恥をかくのか、はたまた脚光を浴びるの

かがわからないから不安になるのです。

もし、これから起こることに多少なりとも確信を持つことができれば、その不安はずいぶん和らぐでしょう。b、それですべての不安がなくなるわけではありませんが、結果があらかじめイメージできていれば、ある程度、落ち着いて取り組むことができるはずです。

楽観主義の人は「自分は成功するにちがいない」という確信をもち、自分が成功するのか、それとも失敗するのかについては考えないのです。考えると不安がおそってくるからです。

極力結果について考えることを避け、ただやるべきことをやるだけ。これが楽観主義者が使う心理的作戦になります。さらには、彼らは本番前には、音楽を聴いてリラックスしたり、読書をして気晴らしをしたりすることが多いです。本番前には、不安に対処するのではなく、不安が生じることを避けようとするのです。

c、防衛的悲観主義の人は、これから遭遇する状況において「悪い結果が出るにちがいない」と確信します。そう考えることで、何が起こるのかわからない不安から逃れることができるからです。

「良い結果が出る」ではなく「悪い結果が出る」と予想することで、成功しなくてはいけないというプレッシャーからも解放されることになります。くり返しいいますが、防衛的悲観主義の人は、ことさら不安傾向が強いから、このように考えるのです。

つまり、防衛的悲観主義者が最悪な事態を予想するのは、自分の目標の障害になる不安をコントロールするためと言えます。

さらには、こういった心理的作戦には、④とても魅力的なメリットがあります。「自分は失敗するにちがいない」とあらかじめ予想しておくことによつて、実際に失敗した時のショックを和らげることができるのです。

読者のみなさんにも経験があるのではないのでしょうか。成功を期待していて失敗するよりも、あらかじめ失敗を予想しておいてその通りになるほうが、ショックが少なかったという経験を。

防衛的悲観主義の人が用いる悲観的思考は、実際に失敗したときに落ち込まずにすむ緩衝材（クッション）となっているのです。

自分が傷つくことをあらかじめ防衛しておくことが、「防衛的悲観主義」とよばれる理由でもあります。もちろん、そう

した考えでも、実際に失敗すると、がっかりすることもありますが、現実を受け止め、次に頑張ろうとするやる気までは奪われないですむのです。

「物事を悪いほうに考える」ことで成功する二つ目のポイントは、予想できる最悪の事態を見越して、それを避ける最大の努力を行うというプロセスにあります。悪いほう、悪いほうへと予想し、考えられる結果を鮮明に思い浮かべることによって、その対策を練りあげ、実行に移すことができるのです。

防衛的悲観主義は、これから起こる出来事を、うんざりするほど悪いほうに想像してしまいます。それはもう名人かと思うほど、ありとあらゆる失敗の可能性を考えることができるのです。

冒頭にあげたA子さんは、「話す内容を忘れて、頭の中が真っ白になるのではないか」、「自分の声が小さくて、友だちが聞き取れないのではないか」、「準備が十分ではないと、先生に怒られるのではないか」、「質問に答えられないのではないか」といったように、来る日も来る日も悲観的に失敗の可能性を考え続けていました。

しかし、⑤このネガティブ思考は、ただのネガティブ思考ではありません。彼らは、ありとあらゆる失敗の状況をイメージ・トレーニングしているからです。考えられる限りのネガティブな結果を具体的に想像することによって、おのずとやるべきことは見えてきます。

そして、具体的な対策が定まると、防衛的悲観主義者といえども、もう迷いはありません。あとはただやるべきことに集中するだけです。d、A子さんは失敗を想定した後、自宅でも何度も発表の練習をくり返し、来るべき質問を想定した回答例を作り、家族をクラスのみんなに見立てて、質疑応答の練習をしましょう。

その時には、不安もすっかり忘れているにちがいません。こうして、用意周到に準備ができた防衛的悲観主義の人は文字通り、「何が起きても大丈夫」という自信のもとで、積極的な態度で本番を迎えることができます。

どんな事態が起きても、それに対処すべき青写真が頭の中にクリアに入っているのです、何も恐れることはありません。まさに不安に打ち勝った状態です。

ここでA子さんの発表の結果をお伝えしましょう。悪いほう、悪いほうに想像し、徹底的にその対策を練りあげたA子さ

んは、本番を迎える頃にはその心配事に対する不安をコントロールし、そして本番では立派な成果を収めたのです。

そんなA子さんですが、次にまたみんなの前で発表を行う時には、同じ不安におそわれてしまいます。「前にもうまかったし、今度もうまいく」とは安易に考えない防衛的悲観主義者は、悪い事態を予想することで不安になつてはしまいますが、その不安を否定するのではなく逆に利用してやる気を高め、悪い事態を避ける最大限の努力をすることで目標達成につながるのです。

……中略……

成功するためには、積極的になることが大切です。

しかし、防衛的悲観主義者のように、つねに物事を悲観的にとらえる人に「ポジティブに考えようぜ」と言っても、ポジティブに考えられるはずがありませんし、不安なときに無理にポジティブに考えようとすると、裏目に出やすい。

ここからいえることは、ポジティブ思考が万能ではないということです。人はそれぞれ違いますし、ある人に効くものがある人には効かないかもしれません。

楽観主義者と悲観主義者とは、目標に向かう際の心理状態が大きく違います。楽観主義者は不安を感じることが少ないのに対して、悲観主義者は不安を持ちやすい。

楽観主義者は、不安をよせつけない作戦を必要とし、悲観主義者は、^⑥不安を効果的にコントロールする作戦が必要になってきます。

そこで、前者は、あまり考えたり悩んだりしないようにすることがベストですし、後者は、予想できる最悪の事態を想像し、それを避ける最大限の努力をすることがパフォーマンスをあげるに際して有効です。

この章のなかで、私は「やる気を高める原動力は、人によって違うのではないか」ということを述べました。悲観的な思考は悪であると考えられてきましたが、防衛的悲観主義者は、失敗するかもしれないと悲観的に考えることで、やる気を高めているのです。「失敗するかもしれない。じゃあ、失敗しないようにがんばろう」といった具合に。

さて、あなたは楽観主義者ですか。それとも防衛的悲観主義者ですか。もちろん、どちらでもないという人もいます。

もしあなたが防衛的悲観主義者であるならば、^⑦無理にポジティブになる必要なんてありません。正々堂々（！）とネガティブ思考を続ければよいのです。

問一 空欄 a 〓 d に当てはまる言葉を次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア これに対して イ さらには ウ そのためには エ たとえば オ もちろん

問二 空欄 A に当てはまる言葉を本文中から五字で探し、抜き出して答えなさい。

問三 — 線部① 「なぜ、ポジティブ思考がよいものとされているのでしょうか」とありますが、その理由として最も適切なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 「きつとうまくいくさ」と期待することで、結果がついてくるから。

イ 書店には楽観的になるための自己啓発の本が溢れかえっているから。

ウ 心理学の様々なデータから、楽観主義者は成功すると言われているから。

エ 物事を悲観的に考えると、能力以下の成績や業績しか上げられないから。

オ 楽観主義者は心身の健康状態が良く、感染症にかかりにくいから。

問四 — 線部② 「こうした考え方」とは、どのような考え方ですか。答えなさい。

問五 — 線部③ 「不安はパフォーマンスを阻害する大きな要因の一つです」とありますが、ここでの「不安」とは何から生じるものですか。本文中から三十文字以内の部分を探し、初めと終わりの五字ずつを抜き出して答えなさい。

問六 — 線部④ 「とても魅力的なメリットがあります」とありますが、「魅力的なメリット」とはどのようなことですか。答えなさい。

問七——線部⑤「このネガティブ思考は、ただのネガティブ思考ではありません」とありますが、そう言えるのはなぜですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア たた失敗の可能性だけを考えるのではなく、成功のイメージを作り上げることまでできているものだから。

イ たた後ろ向きに考えるのではなく、やるべきことを見いだし、先に進むことができるものだから。

ウ たたネガティブな思考を続けるのではなく、ポジティブな思考へと自分を変えることができるものだから。

エ たた漠然と失敗を恐れているのではなく、失敗の状況を具体的にイメージすることまではできるものだから。

オ たた悪い事態を予想するだけでなく、名人かと思うほど、ありとあらゆる悪い結果を想像することができるものだから。

問八——線部⑥「不安を効果的にコントロールする作戦」とありますが、筆者の考える「不安を効果的にコントロールする作戦」の例として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 遠足に向けて忘れ物をしないように三日前から荷物の準備をして何度も確かめ、また、寝坊をしないようにあらかじめ家族には起こしてほしい時間を伝えておき、前日には目覚まし時計を二つかけた。

イ 宿題をいつもうっかり忘れてしまうので、先生や親にしかられないようにするために、忘れたときの言い訳をあらかじめいくつか考えておいた。

ウ 長距離走の練習ではいつもバテて、後半スローダウンしていたので、後半に向けて体力を温存するためにはどうすればいいかを一晩悩み続けた。

エ ピアノの発表会で、練習不足で準備が整っていなかったため、失敗しないようにおまじないのお守りを身につけてステージに上がり、ステージでは緊張しないように極力客席を見ないで演奏した。

オ おいしい料理を作るために、まずは調味料の分量を正確に量ることができるよう様々な計量スプーンを購入し、食材をきれいに並べて、何度もレシピを確認しながら順番通りに作業をした。

問九 ——線部⑦「無理にポジティブになる必要なんてありません」とありますが、なぜそのように言えるのですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 無理にポジティブに考えると、強引に不安から逃れようとすることになり、自分のやるべきことが分からなくなってしまうから。

イ 無理にポジティブに考えると、成功するイメージを持つことになり、楽観的になってやる気を失い、努力をしなくなってしまうから。

ウ 無理にポジティブに考えると、慣れない感情のコントロールの仕方をするることになり、元の防衛的悲観主義に戻れなくなるから。

エ 無理にポジティブに考えると、不安を効果的にコントロールできなくなることになり、かえって悪い結果に陥ってしまうから。

オ 無理にポジティブに考えると、悲観的な思考を取り除こうとすることになり、かえって悲観的なことばかりを考えてしまうから。

問題二

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

一組のリーダー格の一伽はクラスでいばりちらしているが、めぐみとクラスメートの五十嵐さんは一伽に従わないので目のかたきにされている。球技大会のチームが一伽と五十嵐さんと同じになったためめぐみはバスケットボールの得意な姉から特訓を受けながら、三組との練習試合に備えていた。

授業終了の五分前になったとき、バレーボールのコートにいた一組の担任から、集合の合図がかかった。練習をやめ、ボールを胸にかかえて歩きだしたそのとき、突然、左側からボールがとんできた。

「いたつ」

受けることもよけることもできず、ボールはひじにあたった。腕からボールがすべり落ち、とんできたボールといっしょに、足元ではずむ。ふりむくと、一伽が立っていた。

「それ、かたづけといて」

一伽はあごを突きだすようにしていい、くるりと背を向けた。残されたわたしには a もくれず、まっすぐに集合場所へ歩いていく。葉子と万里もくすくす笑いながら、わたしも、わたしも、と、ボールを床に落とした。ほかのクラスの子が、いったいなにごとだろうという目で、こちらを見ていた。

左腕をおさえたまま、わたしはその場に立ちつくした。どんな行動をとったらいいのか、思いつかない。ただ、左腕の痛みが熱をおびはじめると、あまく見られているくやしさを、自分が弱い立場にいることをほかのクラスの子に知られた恥ずかしさが、どっと目の前におそってきた。

なにが*優希みたいに強くなる、だ。これじゃ、優希がいたころとなんにも変わらないじゃないか。

わたしは鼻をすすり、天井を見あげた。だまってちゃだめだ。一伽たちに、なにかいいかえすんだ。

次の瞬間、うしろから、ものすごい勢いでボールがとんできた。

ボールはわたしの右横をかすめ、一本の線を描き、一伽の後頭部を直撃した。ぼこつ、という音とともに、一伽が頭から

床につつこんでいく。そばにいた万里が目をまんまるにしてふりかえり、あんたがやったの？ という顔でこちらを見た。おどろいたわたしがうしろを向くと、五十嵐さんが立っていた。ボールをふたつ脇の下にかかえ、無表情にこちらを見ている。

「①自分でつかったボールは、自分でかたづけようように」

葉子と万里はなにもこたえなかった。ただ、表情を引きつらせ、その場に立っている。一伽といるときは強気でも、自分たちだけで戦う根性は、この子たちにはない。頼みの一伽は両手で頭をおさえ、いつてーっ、と声をあげながら、床の上でうめいていた。

五十嵐さんがわたしの横を通りすぎるとき、なんと声をかけたらいいか迷った。わたしのために一伽をやっつけてくれたのか、一伽に腹を立てただけなのか、よくわからない。五十嵐さんが足を止めてこちらを見た。にこりともせず、ひとこといった。

「パス、うまいね」

「あ、ありが……」とう、といい切る前に、五十嵐さんは歩いていった。葉子たちは「だいじょうぶ？」とかなんとかいいながら、一伽をかかえておきあがらせようとしている。

パス、うまいね。

遠ざかる五十嵐さんを見ながら、心のなかでくりかえしてみた。

はじめて、バスケでほめられた。

床に落ちたボールをひとつ拾いあげ、②胸に抱きしめるようにして、わたしは小走りで集合場所に向かった。

その日、家に帰ると、さっそくお姉ちゃんに練習試合の結果を報告した。CNNニュースの録画を見ていたお姉ちゃんは、画像を止め、ふむ、とちいさくうなずいた。

「そろそろ、パス以外の練習もしくちやね」

わたしたちはすぐにスポーツウェアに着がえ、いつものように城址公園に向かった。

バスケコートにはだれもいなかった。お姉ちゃんはドリブルしながらコートを歩いていき、ゴールに向かってやや右

側、センターラインの真上あたりで足を止めた。

「今日から本番まで、ふたつのことを目標にしよう」

「ふたつ？」

「ひとつはドリブル。めぐみの場合、スピードをあげようって気持ちが強すぎて、手と足の動きがばらばらになってる。まずは動きのバランスをとることが大切。これはもう、練習をくりかえすしかない」

わたしはうなずいた。

「もうひとつは、ランニングシュートをマスターすること」

「むりだよ」わたしはのけぞった。

「むりむり。だってわたし、ドリブルも満足にできないんだよ。あんなワザ、できるわけないじゃん」

……中略……

とりあえず、わたしが手本を見せるから見てね。

お姉ちゃんはいうがはいかドリブルをはじめ、ゴールめがけて走りだした。スリーポイントラインを越え、一步、二歩目でふみきり、ふわりとうきあがる。宙にういた体が夕陽を受け、一瞬、完全なシルエツトに変わった。

ゴールネットが音もなくゆれるのを見ながら、ちいさくため息をついた。思わずはつとするほど、美しいフォームだった。中学時代のお姉ちゃんの姿がふと思いうかぶ。お母さんと見にいった県大会の準決勝だ。試合は負けてしまったけれど、

お姉ちゃんひとりですリーポイントを六本も決めた。お姉ちゃんだけがコートを走り、シュートをし、パスをだしていた。すくなくともわたしにはそう見えた。終盤、シュートをいれるたびにチームメイトからもみくちやにされる姿は、家にいるお姉ちゃんとは、まったくちがう人のようだった。

お姉ちゃんはいつも人の輪の中心にいた。

自分から目立とうとしなくても、自然と注目が集まってしまふ。友だちも多い。たぶん、お姉ちゃんなら、一伽たちにいじわるをされるようなことはないだろう。たとえされたとしても、決して負けないだろう。③ わたしとは、なにもかもちがう。

お姉ちゃんにはここにこしながらもどってきて、はい、とボールをさしだした。

「さ、めぐみもやってみて。気づいたところがあったら、そのつどアドバイスするからね。球技大会まで、毎日最低、二百本やってみよう」

二百本、というひびきをきいた瞬間、体から力がぬけたような気がした。お姉ちゃんはさらに「右と左からそれぞれ二百だからね」とつけ足した。わたしはどんな顔をすればよいかわからず、やけくそ気味に、力なく笑った。

数日後、三組との練習試合が行われた。そこでめぐみは最初のシュートを外したことで自信を失い、失敗を重ねるうちに追い詰められて体調を崩して吐いてしまい、試合途中で家に逃げ帰ってきてしまった。

「おかえり、めぐみ。練習試合、どうだった？」

自分で力ギをあけて家に入ると、リビングからお姉ちゃんがでてきた。思わず、顔をしかめてしまう。だれとも口をききたくなかった。お姉ちゃんはわたしの顔を見て、どうしたの？ と心配そうにたずねた。わたしは無視して階段をあがった。

「めぐみ、着がえ終わったら、すぐおりといで。つかれを残さないよう、今日はやめに切りあげよう」

「いやだ」

「え？」

「もう、いやっ」足を止め、階段の下を見た。「あしたの球技大会、わたしはでない」

お姉ちゃんは戸惑った様子で、どうしたの、とすこし怒ったようにいった。

「めぐみ、せっかくここまでがんばったんだよ。パスもうまくなつたし、ランニングシュートだって……」

「うそっ。あんなに練習したのに、わたしちっともうまくなつてない」

「めぐみ……」

「お姉ちゃんのいうことなんか、きかなきゃよかった。努力したって、意味ないよっ。ほんつと能天気だよねお姉ちゃんって。なんでもよくできて、いいことばかりに囲まれて、そんな人にわたしの気持ち、わかるわけないっ」

部屋に入り、**b**まかせにドアをしめた。もう、なにもかもいやだった。

ベッドに寝そべって、まっ白なまくらを抱きしめ、ぎゅつと目をとじた。
まぶたの裏に、いくつもの光景がうかびあがる。

何度打つてもリングをそれていくポール、怒りを通りこしてあわれむようにわたしを見る一伽の顔、そして、最後に人前で吐く最低のシーンが頭のなかでぐるぐる回った。

お姉ちゃんはおたしがうまくなつたといった。

わたしもそう思っていたけど、結局、それは④勘ちがいだったんだ。それなのに、調子にのってシユートにこだわって、全部はずしてチームに迷惑をかけた。

あのあと、わたしは自分のバッグだけつかんで、逃げるように体育館をとびだした。自分の吐いたものの後始末もせず、だまって家に帰った。一伽はそうとう怒っているだろう。三組の女の子たちも、とちゅうで練習試合がぶちこわしになって、腹を立てているにちがいない。

これ以上ひどくなるわけがないと思っていた気分がさらに落ちこみ、まくらを抱く手に力をこめた。消えてしまいたかった。

ノックの音で目がさめた。

どのくらい眠っていたのか、部屋は夕暮れの薄むらさきに染まっていた。カーテンを引き、蛍光灯のひもを引っぱり、そとドアをひらく。隙間の向こうにお姉ちゃんの顔が見えた。

「めぐみ、話せる？」

笑ってはいるものの、いつもの笑顔とはすこしちがう。つかれているような、どこか無理をしている感じだった。さつきお姉ちゃんにぶつけた言葉を思いだし、たちまち気まずくなる。気分は落ちこんだままだったけれど、いくらか眠ったせい、頭のなかは冷静になっていた。

「ちよつと、わたしの部屋に来てくれる？」

お姉ちゃんはおたしの手をとり、そつと引いた。わたしはだまっとうなずいた。なにもいわなくていいよ、というふうにお姉ちゃんにはっこりした。今度は、いつもの笑顔だった。

お姉ちゃんの部屋はいつもいい香りがする。

真夏の森のなかのような、濃い緑のおいだ。窓際の机にはシルバークラールのノートパソコンと、薄い洋書が何冊か置いてある。壁にはポスターが二枚貼ってあり、一枚は映画『スタンド・バイ・ミー』にでていた俳優のリバー・フェニックス、もう一枚はお姉ちゃんが尊敬するキング牧師の演説風景だ。本棚には写真集や画集がずらりとならんでいる。

わたしは群青色のカバーがかかったベッドのはしに腰をおろした。すこしおくれて、お姉ちゃんもとなりに座った。

「ちいさいころさ」とお姉ちゃんはいった。「めぐみがまだ一年生か二年生のころ、学校の作文でわたしのこと書いてくれたよね」

変なこときくなあ、と思いつながらわたしはうなずいた。国語の授業で家族をテーマに作文を書け、といわれて、わたしはお姉ちゃんについて書いた。お姉ちゃんはいつもいちばんで、でもちともいばらなくて、すごいと思います……というように、今思いたすとかかなり恥ずかしい内容だった。しかし、なぜか当時の担任がその作文を気に入り、学級通信に全文をのせてしまったのだ。

「今だからいうけど、あれ読んだとき、かなりびびくりしたんだ。わたしのこと、めぐみがあんなふうに見てるなんて知らなかったから。うれしかったけど、自分が自分じゃないような、ちよつと変な感じがした」

お姉ちゃんは肩をすくめて、くすつと笑った。そして、笑顔のまま、⑤ほんのすこしさびしそうにまゆをよせて、「めぐみのなかのわたしは、まだあのころと同じなんだね」といった。

話がどこに行きつくのかわからなかった。お姉ちゃんは机のほうに歩いていき、一冊のノートを持ってきた。つやのある淡い桃色の表紙で、上のほうには緑色のペンで「ENGLISH」と書いてある。右下にはなにかをマジックで塗りつぶしたような、黒いあとがあった。

なにこれ？ 顔をあげて目でたずねても、お姉ちゃんは視線を合わせようとしなない。しかたなく表紙をめくった瞬間、cをのんだ。ページのまんなかに、殴り書きのような汚い字で、「バーカ」「男たらし」「死ぬ」と書いてある。別のページをめくると、落書きはいくつも見つかった。言葉だけじゃなく、わけのわからないイラストや、赤インクをぶちまけたような不気味なにじみもある。

もしかして、とわたしは思った。もしかして、これって……。

ノートをとじ、もう一度表紙のマジックのあとに目をこらすと、黒いインクの奥おくに、かすかに、佐倉美帆さくらみほという名前が見えた。

「わたしはね」お姉ちゃんがいった。「高校に行かなくなったんじゃなくて、行けなくなったの」

「どうして？」声が震ふるえた。「どうして、お姉ちゃんが……」

うそでしょ、という言葉は声にならなかった。いつだってお姉ちゃんは人気者で、子ども会のパーティーでも、親戚しんせきの集まりでも、お姉ちゃんのまわりには、自然と人の輪ができた。悪口がきらいで、人を笑わせることが大好きで……いじめのターゲットになって、なるはずがないのに。

お姉ちゃんは床ゆかにあったクッションをひぎにのせ、すこし前かがみになりながら、静かに口をひらいた。

「いろいろと理由はあったんだと思う。どこかで、なにかがうまくいかなかったのかもしれないし、知らないところで、だれかにうらまれていたのかもしれない。でも、正直、わたしにもよくわからない」

「ひどい」わたしはうめいた。冷たい水をたらされたみたいに、首筋くびすぢがぞくつとした。「こんなの、あんまりだよ」

「うん」お姉ちゃんはかすかに笑った。「わたしもそう思った。だから、教室でいやなことをいわれても、部活の練習でパスが回ってこなくなっても、学校を休もうとは思わなかった。わるいのはあの子たちだ、わたしはまちがったことはしていない、負けてたまるかって、自分にいいきかせてた」

わたしは一年前のお姉ちゃんを思いうかべた。朝はやく、バスケット部のおおきなスポーツバッグを手にして、玄関げんかんをでていくお姉ちゃん。部活のない日曜日、ときばきと家事をこなすお姉ちゃん。庭のカロンの根元をほり、肥料ひりょうをやり、枝葉えだはをかりとるお姉ちゃん……。いくつものシーンがつきつぎによみがえってきたけれど、どの場面でも、お姉ちゃんは笑っていた。笑顔えがおのお姉ちゃんしか思いうかばなかった。

でも、とお姉ちゃんはいった。

「お母さんは気づいてたんだろうね。去年の暮くれ、ふたりで洗いものしてたとき、お母さん、急に手を止めていったの。ねえ美帆みほ、つらいことをがまんしていても、心が強くなるとは限かぎらないんだよ、って。⑥ びつくりしたよ。え、なんのこと？ ってとぼける前に、心がぐらくらして、胸むねにしまってたくやしさとか、さびしさとか、いろんな感情かんじょうがおしよせてきて、も

う思いきり泣いちゃった。お母さんは最後までなにがあつたのかきかなかつた。だから、^⑦このこというのめぐみが始めてなんだ」

「……どうしてわたしに？」

「ひとつはね」とお姉ちゃんはいった。「めぐみにあやまりたかつたから。高校やめて、バスケットする場所がなくて、ずっとうずうずしてたの。めぐみ、上達がはいし、いっしょにバスケットしてほんとうに楽しかつた。ただ、わたしは楽しくてもめぐみはどうだったのかな、って。必要以上に練習させて、追いつめてたのかもしれない。もうすこしめぐみの気持ちを考えるべきだつたね。ごめんね」

「そんなこと」わたしは首をふつた。お姉ちゃんはすつと両目を細くして、もうひとつはね、と続けた。

「くやしかつたの。さつき、お姉ちゃんなんかわたしに気持ちわかるわけないっていつたでしょ。それがすこし、くやしかつた」

ごめん、とわたしはあやまつた。お姉ちゃんはほおをゆるめて、わたしの背中^{せなか}を軽くたたいた。気にしてないよ、の意味にも、元氣だしなよ、のはげましにも思えて、胸^{むね}が熱くなつた。

お姉ちゃんは赤いリストバンドをはずしてわたしにくれた。

部屋にもどるとちゆう、さつそく腕^{うで}にはめてみると、バンドはまだあたたかかつた。

⑧ お姉ちゃんと、手をつないでるみたいだつた。

(蒼沼^{あおぬま} 洋人^{やうと}『さくらいろの季節』 ポプラ社)

〈注〉*優希……すでに転校してしまつためぐみの元クラスメイト。めぐみと同様、一伽たちに目のかたきにされていたが、言
い返していた。

問一 空欄 a c に当てはまる最も適当な語を漢字一字でそれぞれ答えなさい。

問二——線部①「自分で使ったボールは、自分でかたづけするように」とありますが、五十嵐さんはなぜこう言ってボールを投げたのですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア スポーツをする上での基本的なルールを皆が守ってほしいと思っただから。

イ 一伽の傍若無人な振る舞いをここで戒め、自分が優位に立ちたいと思っただから。

ウ 一伽や葉子たちのいじわるな行為をそのままにしておけないと思っただから。

エ 自分たちのチームが仲が悪いことを他のクラスの人たちに知られたくなかったから。

オ 途方に暮れているめぐみをなんとかして勇気づけてあげたかったから。

問三——線部②「胸に抱きしめるようにして、わたしは小走りで集合場所に向かった」とありますが、この時のめぐみの心情を説明したものととして、最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア バスケットのことはじめてはじめてほめてくれた五十嵐さんの言葉をうれしく思っている。

イ 自分のプレーを認めてくれる人がいたことをめずらしいことだと感じている。

ウ どうすることもできずにいた自分を五十嵐さんが助けてくれたことに感謝している。

エ いじわるな一伽がやつつけられたことを悪いと思いがらもひそかに喜んでいる。

オ バスケットボールがうまくなるために、さらに練習にはげもうと前向きな気持ちになっている。

問四——線部③「わたしとは、なにもかもちがう」とありますが、「わたし」のどのようなところが姉と違うと考えていますか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 自分からはたらしかけずに自然の流れにまかせているままでは、友人をつくるのが困難であるところ。

イ ひたすら努力をくり返してもいっこうにバスケットボールがうまくならないところ。

ウ 自分からは目立たないようにしているのに、どういうわけか人々にいじめられてしまうところ。

エ 人にいじわるされても何も言い返せず、どのような行動をとったらよいかわからなくなってしまうところ。

オ 友達とはそれなりにうまくやっているつもりではあるが、しばしば誤解されてしまうところ。

問五——線部④「勘ちがいだったんだ」とありますが、それはどのような「勘ちがい」ですか。答えなさい。

問六——線部⑤「ほんの少しさびしそうにまゆをよせて」とありますが、この時の姉の心情を説明したものととして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 自分は昔妹が思っていたようなすごい人ではなくなってしまったことを後悔している。

イ 今の自分はもう妹の期待に応えられるような姉ではないことを妹に申し訳なく感じている。

ウ 妹のせいで妹の期待を裏切るような話を切り出さねばならなくなったことをつらく感じている。

エ 妹が持っている自分のイメージがやがては大きく変化していつてしまおうことを残念に感じている。

オ 妹がいまだに自分のことを立派な人間であると思っていることを不思議に感じている。

問七——線部⑥「びっくりしたよ」とありますが、姉はどのようなことに驚いたのですか。説明しなさい。

問八——線部⑦「このことというのめぐみはじめてなんだ」とありますが、この時の姉はめぐみにどのようなことをわかっ
てもらったかったですか。適当なものを次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 私もしじめられて高校に行けなくなるほど悩んでいたもので、これ以上いじめの話をしてほしくないということ。

イ 私が相手の事情も考えずに厳しい言葉を投げつけ、めぐみの心を深く傷つけたことを許してほしいということ。

ウ 私の経験からもわかるように、めぐみも今の現状を受け入れて生きていくしかないということ。

エ めぐみと思うような優等生ではない私には、苦しんでいるめぐみの気持ちが理解できるということ。

オ めぐみの気持ちも考えずにバスケットボールの練習をさせたことを、申し訳なく思っているということ。

カ めぐみは自分で思っているよりずっとバスケットボールの才能に恵まれているのだということ。

問九——線部⑧「お姉ちゃんと、手をつないでるみたいだった」とありますが、この時の私の心情を説明したものととして、最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア なんでもできて、人気者でいつも一番なお姉ちゃんが味方してくれるので、何が起こっても心強いと思った。

イ バスケットボールの上手な姉がくれたリストバンドを身につけたら、自分もきつとうまくなれると思った。

ウ 私を励ますために過去のつらい体験を打ち明けてくれた姉と、心が通い合うような感じがした。

エ 姉のつらい過去に気づかずに責めてしまった自分を、姉が許してくれたことの証を得て安心した。

オ 周囲からの嫌がらせに苦しんでいるのは自分だけではないとわかって、さびしさが紛れた。

問題三

次の①～⑩の——線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ直しなさい。

- ① キリツ正しい生活を心がける。
- ② センモンの知識を身につける。
- ③ ケットウ書の付いた子犬を飼うことにした。
- ④ ジシヤクのN極とS極。
- ⑤ 区役所の新しいチヨウシヤが完成した。
- ⑥ 盗賊が行方をくりました。
- ⑦ 料理の本を見ながら小豆を煮る。
- ⑧ 一人暮らしを始める姉が賃貸マンションを契約した。
- ⑨ 彼の言葉は額面通りに受け取らない方がいい。
- ⑩ 伝家の宝刀を抜く。

問題四

次の①～⑤は、日本語の表現としての不適切なあり方を示したものです。不適切な表現を含む後のア～コの文から①～⑤に当てはまるものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 主語と述語が整っていない。
- ② 呼応する言葉の使い方が不適切である。
- ③ 時間の流れを表す表現が整っていない。
- ④ 「て・に・を・は」の使い方が不適切である。
- ⑤ 敬語の使い方が不適切である。

- ア 姉は終わっていない夏休みの宿題を母に手伝わさせた。
- イ 今からお風呂に入り、その後すぐに寝た。
- ウ 壁に掛けられた絵を、思わず心奪われた。
- エ 成人の日には晴れ着姿の女性が町中で見れた。
- オ 先生が申し上げた通りの手順で実験を進めた。
- カ たとえ雨が降ったら、体育祭は中止です。
- キ 集合時間に遅刻した理由は、うっかり朝寝坊した。
- ク 冬の夜空には、多くのキラキラと星が光っている。
- ケ まだこの本を読み終えていないのに、結末を知らない。
- コ 休みの日には、映画や旅行をします。

問題五

二字熟語には、意味が対になっている漢字を組み合わせてできたものがあります。次の①～⑩について、意味が対になる漢字を組み合わせた二字熟語になるように、に当てはまる漢字を答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ⑩ | ⑨ | ⑧ | ⑦ | ⑥ | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| <input type="checkbox"/> | 名 | 干 | 加 | 単 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 因 | 売 |
| 受 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 旧 | 罪 | 暖 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

(以下余白)